

専門分野Ⅰ					
科 目 名				担 当 者	
33.基礎看護学概論 (看護の概念・看護理論)				鳥越 千穂 「看護師実務経験25年」 秋山 啓子 「看護師実務経験15年」 間 雅子 「看護師実務経験43年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
1	前期	30	1	15	講義
目標: 1. 看護の概念について理解する 2. 現代の看護の考え方と看護学の発展段階を知る 3. 保健医療システムと看護の役割について理解する 4. 看護と倫理について理解する					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	看護とは何か	1)看護の本質 看護学を学びはじめるにあたって	講義・GW	鳥越
2	2		2)看護の定義 ・法律による定義 ・職能団体による定義 ・看護理論家による定義	講義・GW	
3	2		3)ナイチンゲール看護の定義 ・看護覚書を読み解く	講義・GW	
4	2				
5	2		4)ヴァージニア=ヘンダーソン (1)看護の定義 (2)基本的ニードと基本的看護 (3)基本的看護の構成要素	講義・GW	
6	2	看護の対象の理解	1)人間の「こころ」と「からだ」 2)生涯発達し続ける存在	講義	秋山
7	2		3)人間の「暮らし」の理解	講義	
8	2	健康と看護	1)健康の概念 2)社会保健遷と健康観の変化	講義	
9	2		1)人々の生活と健康に関する統計	講義	
10	2	看護の提供者	1)職業としての看護 2)看護職者に関わる制度	講義	鳥越
11	2	保健師助産師看護師法	1)保健師助産師看護師法における看護師の定義 2)保健師助産師看護師法の目的 (1)看護業務 (2)守秘義務 (3)看護師国家試験 (4)免許申請	講義	秋山
12	2	倫理	1)医療をめぐる倫理 2)看護倫理	講義	
13	2	看護提供のしくみ	1)サービスとしての看護 2)看護サービスの提供の場 (チーム医療) 3)看護をめぐる制度と政策	講義	間
14	2			講義	
15	2	科目試験		試験	
使用テキスト : e系統看護学講座 基礎看護学概論 医学書院 参考資料 : 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 看護六法					
評価方法 : 筆記試験					

専門分野 I					
科 目 名				担 当 者	
34.基礎看護学方法論 I (生活の援助技術①:人間関係を成立させる技術)				渡部恵利香「看護師実務経験8年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
1	前期	15	1	8	講義・演習
目標: 1. 看護実践に共通する基本技術を理解する 2. 看護援助の基礎となるコミュニケーション技術を理解し、対象と積極的に関わりを持つ姿勢と方法を理解する 3. 看護場面におけるコミュニケーション・センスを高める					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	人間の尊厳に基づく看護技術	1)技術とは 2)看護技術の特徴 3)看護技術の範囲 4)看護技術を適切に実践するための要素 (1)目的 (2)正確な方法 (3)根拠 (4)個別性 (5)インフォームドコンセント (6)安全・安楽 (7)プライバシー (8)対象理解 (9)実践後の評価 5)看護技術における倫理	講義	渡部
2	2	人間関係を発展させる技術	1)コミュニケーションの意義と目的 2)看護・医療におけるコミュニケーション (1)看護・医療におけるコミュニケーションの目的 (2)看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 (3)看護・医療におけるコミュニケーションの重要性	講義	渡部
3	2	人間関係を発展させる技術	3)コミュニケーションの構成要素と成立過程 (1)コミュニケーションの手段 4)関係構築のためのコミュニケーションの基本 (1)接近的コミュニケーションの原理 (2)接近的行動と非接近的行動	講義 演習	渡部
4	2	人間関係を発展させる技術	5)効果的なコミュニケーションの実践 (1)傾聴の技術 (2)共感的理解 (3)情報収集の技術 (4)説明の技術 (5)アサーティブネス	講義 演習	渡部
5	2				渡部
6	2	看護におけるコミュニケーション	1)看護専門職としての応答能力を高める (1)プロセスレコードとは (2)プロセスレコードの記述方法 (3)プロセスレコードとリフレクション 2)現実の看護場面からコミュニケーションを展開 (1)ロールプレイの実践 (2)プロセスレコードを用いてのリフレクション	講義 演習	渡部
7	2				渡部
8	1	科目試験		筆記試験	
使用テキスト e系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 参考文献 看護がみえる①、② メディックメディア					
評価方法:筆記試験、プロセスレコード					

専門分野 I							
科 目 名				担 当 者			
35.基礎看護学方法論Ⅱ (看護の基本となる技術②: 医療・療養環境を整える技術)				岡村ひろみ「看護師実務経験33年」 横澤亜希子「看護師、助産師実務経験25年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数		授業形態	
1	前期	30	1	15		講義・演習	
目標: 1.対象者の健康に関わる生活環境が理解できる 2.対象者の健康に関わる生活環境の調整ができる 3.感染及び感染発症の要因と感染防御について理解できる							
回数	時間	講義内容			教授内容	備考	
1	2	環境調整技術	1.看護援助における環境の位置づけ 2.生活環境の調整にかかわる基礎知識 1)プライバシーの調整 2)換気 3)温度湿度 4)騒音 5)採光			講義	岡村
2	2	環境調整技術	3.療養のための環境調整 1)休息睡眠の基礎知識 2)病院のしくみ 3)病床の環境			講義	岡村
3	2	環境調整技術	4.生活環境のアセスメント 1)病床環境と環境計測 2)リネンの取り扱い方法			演習	岡村
4	2	環境調整技術	5.病床環境の調整に関する援助の実際 1)安全・安楽なベッド作成の必要性和根拠 2)ベッドメイキングの必要物品と使用順序 3)マットレスパッドと下シーツを敷くポイント 4)ボディメカニクスを活用したベッドメイキングのポイント			演習	岡村
5	2	環境調整技術	6.病床環境の調整に関する援助の実際 1)オープンベッド作成のデモンストレーション 2)オープンベッド作成の演習			演習	岡村
6	2	環境調整技術	7.病床環境の調整に関する援助の実際 1)臥床患者のシーツ交換デモンストレーション 2)臥床患者のシーツ交換演習			演習	岡村
7	2	環境調整技術				演習	
8	2	環境調整技術	8.環境整備に関する援助とまとめ 1)病床環境整備 2)環境調整技術のまとめ			演習	岡村
9	2	環境調整技術				講義	
10	2	感染予防	1.感染防止に必要な基礎知識と標準予防対策(スタンダードプリコーション)			講義	横澤
11	2	感染予防	2.感染経路別予防策 感染防止対策①手洗い法			講義・演習	横澤
12	2	感染予防	3.感染防止対策 ②洗浄・消毒・滅菌 ③無菌操作			講義	横澤
13	2	感染予防	4.感染防止対策 ④感染性廃棄物の取り扱い			講義	横澤
14	2	感染予防	5.スタンダードプリコーションの実際 個人防護用具の装着 無菌操作と清潔操作 ①滅菌バッグの取り扱い ②鑷子・鉗子の取り扱い ③ガウンテクニックと滅菌手袋装着			演習	横澤
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト:e系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 参考文献:看護がみえる①、② メディックメディア							
評価方法:筆記試験				* 臥床患者のシーツ交換 技術確認			

専門分野 I					
科 目 名				担 当 者	
36.基礎看護学方法論Ⅲ (看護の基本となる技術③ 対象把握の技術)				星野めぐみ「看護師実務経験21年」 船岡未恵「看護師実務経験14年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
1	前期	30	1	15	講義・演習
目標: 1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの概念が理解できる 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、測定方法を習得する 3. 測定した客観的データを理解する 4. データーを観察し、記録・報告ができる					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは(観察・記録・報告) フィジカルアセスメントの基本的技術 (視診・触診・打診・聴診)	講義	星野
2	2	フィジカルアセスメント (胸部・肺)	胸部・肺の形態機能の基礎知識 胸部・肺の問診・視診(呼吸測定・胸囲測定)	講義	船岡
3	2	フィジカルアセスメント (胸部・肺)	胸部・肺の触診・打診	講義 CD-R	船岡
4	2	フィジカルアセスメント (胸部・肺)	胸部・肺の聴診(呼吸音聴取)	講義	船岡
5	2	フィジカルアセスメント (脳・神経系)	脳・神経系の形態機能の基礎知識 脳・神経系の問診	講義	星野
6	2	フィジカルアセスメント (脳・神経系)	脳・神経系の視診(意識状態・不随意運動など) 脳・神経系の打診(各反射)	講義	星野
7	2	フィジカルアセスメント (心臓・循環系)	心臓・循環系の形態機能の基礎知識 心臓・循環系の問診・視診(CTRの算出)	講義	星野
8	2	フィジカルアセスメント (心臓・循環系)	心臓・循環系の触診(脈拍測定) 心臓・循環系の打診 心臓・循環系の聴診(心音聴取)	講義	星野
9	2	フィジカルアセスメント (心臓・循環系)	心臓・循環系の聴診(血圧測定)	演習	星野
10	2	フィジカルアセスメント (腹部・消化器系)	腹部・消化器系の形態機能の基礎知識 腹部・消化器系の問診・視診 (身長・体重・腹囲測定)	講義	船岡
11	2	フィジカルアセスメント (腹部・消化器系)	腹部・消化器系の触診(硬直・圧痛) 腹部・消化器系の打診(腹水・肝臓)	講義	船岡
12	2	フィジカルアセスメント	腹部・消化器系の聴診(腸蠕動音) 胸部・肺の聴診(呼吸音聴取)	講義・演習	船岡
13	2	フィジカルアセスメント	腹痛を訴える患者のフィジカルアセスメント 心臓・循環系の聴診(血圧測定) 心臓・循環系の触診(脈拍測定) 胸部・肺の問診・視診(呼吸測定)	演習	船岡
14	2	フィジカルアセスメント	脳・神経系の視診(体温測定) 腹部の問診・触診・打診・聴診		船岡
15	2	科目試験		試験	
使用テキスト: e系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 参考文献: 看護がみえる①、② メディックメディア					
評価方法: 筆記試験 提出物				※フィジカルアセスメントとバイタルサイン測定 技術確認	

専門分野 I							
科 目 名				担 当 者			
37.基礎看護学方法論Ⅳ (看護の基本となる技術④:問題解決の技術)				岡村ひろみ 「看護師実務経験33年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態		
1	後期	30	1	15	講義		
目標 1. 看護過程について理解ができる。 2. ヘンダーソンが考える看護論が理解できる。 3. ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程が展開できる。							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	看護過程とは何か	1)看護過程とは (1)看護過程の5つの構成要素 (2)5つの構成要素の関係性 (3)看護過程を用いることの利点			講義	岡村
2	2	看護過程の学習展開の基盤となる考え方	1)看護過程を展開する際に基盤となる考え方 (1)問題解決過程 (2)問題解決過程と看護過程 (3)クリティカルシンキング (4)リフレクション 2)ヘンダーソンが考える看護の概念 人間、環境、健康、看護の概念			講義	岡村
3	2	情報収集・情報の整理	1)アセスメント(情報収集と分析) 2)情報収集の方法 3)情報の分析			講義 演習	岡村
4	2	看護問題の明確化	1)全体像、関連図 2)看護問題の見きわめ 3)看護問題の種類 4)看護問題(看護診断)の表記方法 5)看護問題の優先順位 6)共同問題の考え方			講義	岡村
5	2	計画立案	1)期待される成果の明確化 2)看護計画の立案 (1)患者の個別性 (2)看護計画の表記			講義	岡村
6	2	計画と実施・実施と評価	1)看護計画を実施に移す (1)援助計画書の記述 ①援助の目的 ②患者の状態 ③個別性 (2)援助計画書の振り返り			講義	岡村
7	2		2)実施 (1)実施の流れ (2)実施と経過記録 3)評価 (1)評価の方法 (2)評価の進め方			講義	岡村
8	2	事例展開	肺炎患者のアセスメント(情報の分析・解釈)			講義	岡村
9	2		肺炎患者の関連図の作成			GW 講義	岡村
10	2		肺炎患者の関連図から優先順位を決定			GW 講義	岡村
11	2		肺炎患者の看護計画立案			GW 講義	岡村
12	2		肺炎患者の援助計画書作成			講義	岡村
13	2		肺炎患者の援助実施後の経過記録、評価			講義	岡村
14	2	看護記録	1)看護記録とは (1)看護記録の法的位置づけ (2)看護記録の目的と機能 2)記載・管理における留意点			講義	岡村
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト e系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 NOUVELLE HIROKAWA ヘンダーソンの基本看護に関する看護問題リスト NOUVELLE HIROKAWA							
評価方法:筆記試験、看護過程展開記録(アセスメント/全体像/看護計画/援助計画書/SOAP) 卒業時到達看護技術確認を含む							

専門分野 I							
科 目 名				担 当 者			
38.基礎看護学方法論 V (生活を整える技術①:食事・排泄)				宮越陽子「保健師、看護師実務経験17年」 深川 悟「看護師実務経験33年」 井澗由加理「看護師実務経験23年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数		授業形態	
1	前期	30	1	15		講義・演習	
目標: 1. 食の意味と関連する要因を学び、適切な援助方法が理解できる 2. 臥床患者の食事の介助ができる 3. 排泄の意義と形態機能を関連させてそのメカニズムを理解できる 4. 排泄に関するフィジカルアセスメントの必要性和方法(技術)を理解できる 5. 倫理的配慮と自然排泄への介助、便尿器、おむつの使用方法、便秘ケアと浣腸の方法を理解できる							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	食事援助技術	1)人間にとっての食事・栄養摂取の意義 2)食事・栄養摂取のしくみ (1)食欲のメカニズム (2)食物(栄養素) (3)食行動 (4)消化吸収のメカニズム (5)摂食・嚥下のメカニズム (6)食事摂取基準と栄養状態のアセスメント			講義	深川
2	2	食事援助技術				講義	深川
3	2	食事援助技術	3)患者への食事の援助 (1)「食事」の援助が必要な対象者 (2)医療施設で提供される食事 (種類・形態) (3)経口摂取できる患者の食事介助			講義	深川
4	2	食事援助技術	4)食事援助の実際 自力で食行動がとれない人の経口からの食事の援助			演習	深川
5	2	食事援助技術	5)口腔ケアの実際 自力で口腔ケアのできない人の援助			講義・演習	深川
6	2	排泄援助技術	1)排泄の基礎知識 (1)人間のとしての排泄の意義 (2)排泄のしくみ ①排便 ②排尿			講義	宮越
7	2	排泄援助技術	2)排泄のアセスメント (1)排泄物の性状 (2)排泄状況 (3)排泄動作 (4)生活習慣についての情報収集 (5)精神的要因 (6)疾病・治療などの要因			講義	宮越
8	2	排泄援助技術	3)排泄の援助方法 (1)自然な排便・排尿の援助 (2)床上での排泄援助			講義	宮越
9	2	排泄援助技術	4)床上での排泄援助 (1)便器のあて方 (2)尿器のあて方			演習	宮越
10	2	排泄援助技術	4)床上排泄援助 (3)おむつによる排泄援助の適応、目的 (4)陰部洗浄の目的			講義・演習	井澗
11	2	排泄援助技術	4)床上排泄援助 (5)おむつによる排泄援助の実際 (6)陰部洗浄の実際			演習	井澗
12	2	排泄援助技術	5)障害のある人の排泄援助 (1)排便に障害がある人への援助 ①便秘 ②下痢 ③便失禁 (2)排尿に障害がある人への援助 ①頻尿と尿失禁 ②排尿困難と尿閉			講義	宮越
13	2	排泄援助技術	6)排泄に関する処置 (1)浣腸(グリセリン浣腸)			講義	宮越
14	2	排泄援助技術	6)排泄に関する処置 (1)浣腸の実際			演習	宮越
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 参考文献 看護がみえる①、②(メディックメディア)							
評価方法:筆記試験、演習、レポート							

専門分野 I							
科 目 名				担 当 者			
39.基礎看護学方法論 VI (生活を整える技術②:活動休息・清潔)				佐々木保子「看護師実務経験7年」 小山詩織「看護師実務経験6年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態		
1	前期	30	1	15	講義・演習		
目標							
目標: 1. 活動と休息の意義とボディメカニズムが生体に及ぼす影響が理解できる 2. 安全安楽に体位変換および移動ができる 3. 清潔の意味と関連する要因を学び、適切な看護が理解できる 4. 適切な衣服の調整と清潔の援助ができる							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	活動休息の援助技術	1)姿勢と体位(体位の種類、良肢位、良い姿勢) 2)ボディメカニクスの原理 3)安楽な体位(安楽な体位の条件、体位保持の方法)			講義・演習	佐々木
2	2	活動休息の援助技術	4)体位変換(同一体位の持続による心身への影響、体位変換の目的、方法) (1)ベッド上での水平移動(左右、上下) (2)仰臥位⇄側臥位 (3)仰臥位⇄腹臥位 (4)仰臥位⇄端坐位 (5)端坐位⇄立位 (6)援助時の観察			講義・演習	佐々木
3	2	活動休息の援助技術					佐々木
4	2	活動休息の援助技術	5)移動・移送援助の実際 (1)移動・移送の目的 (2)患者の状況と移送用具の選択 (3)移送用具の操作方法(車いす、ストレッチャー) (4)移動・移送の方法の実際 (ベッド⇄車いす⇄移送、ベッド⇄ストレッチャー⇄移送)			講義・演習	佐々木
5	2	活動・休息の援助技術					佐々木
6	2	清潔・衣生活援助技術	1)清潔の援助 (1)清潔の意義 (2)清潔援助の必要性の判断と看護の目的 (3)皮膚・粘膜の解剖生理 (4)発達段階と清潔行動との関係 (5)清潔援助方法に関する基礎知識 (6)清潔援助方法の選択 (7)清潔援助実施時の原則			講義	小山
7	2	清潔・衣生活援助技術	2)部分浴(手浴)援助の実際			演習	小山
8	2	清潔・衣生活援助技術	3)部分浴(足浴)援助の実際			演習	小山
9	2	清潔・衣生活援助技術	4)全身清拭援助の実際			演習	小山
10	2						小山
11	2	清潔・衣生活援助技術	5)衣生活の意義と基礎知識 (1)衣生活の意義 (2)対象者の状態に応じた衣生活の特徴 (3)衣生活援助の必要性の判断と看護目的 (4)衣生活援助に必要な基礎知識			演習	小山
12	2	清潔・衣生活援助技術	6)寝衣交換の援助の実際(和式寝衣、ズボンの着脱)			演習	小山
13	2	清潔・衣生活援助技術	7)洗髪援助の実際			演習	小山
14	2	清潔・衣生活援助技術	8)整容・まとめ			講義・演習	小山
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト:e系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 参考文献:看護がみえる①、② メディックメディア							
評価方法 : 筆記試験 演習 レポート				* 車椅子移乗・移送と清潔技術確認			

専門分野Ⅰ					
科 目 名				担 当 者	
40.基礎看護学方法論Ⅶ (診療に伴う技術①:薬物療法・採血法)				船岡 未恵「看護師実務経験14年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	前期	3	1	15	講義・演習
目 標 1. 薬物療法における法律と看護師の役割が理解できる 2. 薬物療法の目的と生体への影響・効果的な看護が理解できる 3. 安全に注射の実施ができる					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	薬物と看護	1. 与薬における法律 2. 薬物療法における看護師の役割 3. 薬物療法に関するアセスメント	講義	船岡
2	2	薬物と看護	4. 薬物療法の基礎知識 ①治療に及ぼす要因 ②処方箋 ③経口・口腔内 ④直腸内 ⑤塗布・塗擦	講義	船岡
3	2	薬物と看護	5. 薬物療法時の援助方法 ①経口的薬物療法 ②口腔内薬物療法	講義 演習	船岡
4	2	薬物と看護	6. 薬物療法時の援助方法 ③直腸内薬物療法 ④塗布・塗擦法	講義 演習	船岡
5	2	注射と看護	1. 注射時の基礎知識 ①注射の基礎知識、必要性・安全性・法的責任 ② 注射器・注射針・アンプル・バイアルの取扱	講義 演習	船岡
6	2	注射と看護	2. 皮内・皮下注射実施の援助法 ①皮内・皮下・筋肉注射法のアセスメント ②安全管理	講義 演習	船岡
7	2	注射と看護	③皮内・皮下・筋肉注射法	演習	船岡
8	2				
9	2	検査と看護	3. 静脈血採血法の基礎知識と方法 ①採血の目的・種類・採血部位、採血時の注意点 ②真空採血管を用いた採血法、駆血法、直針の固定法	講義 演習	船岡
10	2	検査と看護	4. 静脈血採血法の実際(モデル使用)	演習	船岡
11	2	注射と看護	5. 静脈内注射の基礎知識と方法 ①静脈内注射における安全対策 ②静脈内注射法の種類、注射部位の選択 ③翼状針を用いた静脈内注射法 6. 点滴静脈内注射の基礎知識と方法 ①留置針の挿入方法、点滴セットの使用法 ②点滴の管理方法	講義 演習	船岡
12	2	注射と看護	7. 静脈内注射の実際(モデル、翼状針使用) 8. 点滴静脈内注射の実際(モデル、留置針使用)	演習	船岡
13	2				船岡
14	2	注射と看護	9. 輸血 ①種類と目的・適用 ②作用機序 ③副作用と反応 ④留意事項	講義	船岡
15	2	科目試験		試験	
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 参考文献: 医療安全ワークブック 医学書院 看護がみえる①、② メディックメディア					
評価方法: 筆記試験 演習 レポート					

専門分野 I					
科 目 名				担 当 者	
41.基礎看護学方法論Ⅷ (診療に伴う技術②ー治療・検査・ME機器)				木村紗弥香 岡村ひろみ 看護師33年 神林 政子 看護師36年 星野めぐみ 看護師21年 俣野 詩織 看護師6年	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	前期	45	2	23	講義・演習
目標 1. 臨床看護に共通する診察、検査、ME機器に関し、安全に実施できる知識・技術について理解する。 2. 臨床看護に共通する治療、処置に関し、安全に実施できる知識・技術について理解する。					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	診察と看護 検査と看護	1)診察時の看護 2)検査に伴う看護の役割 (1)検査場面における看護師の役割 (2)検査介助の基本	講義	星野
2	2	検査と看護	3)検査の援助方法とアセスメント (1)排泄物の検査 ①尿の検査 ②便の検査 (2)体液・組織の検査 ①血液検査 ③穿刺液の検査(腹腔穿刺・骨髄穿刺)	講義	星野
3	2			講義	星野
4	2	ME機器使用時の看護	1)ME機器とは 2)ME機器の安全使用 3)ME機器使用時の援助方法 (1)人工呼吸器 (2)輸液ポンプ(高カロリー輸液法 (3)シリンジポンプ (4)X線検査 (5)CT検査	講義	星野
5	2			講義	星野
6	2			講義	星野
7	2	呼吸を整える 吸入の基礎知識	1)気道の働き 2)吸入の目的 3)吸入による身体の影響と方法の選択	講義 VTR	俣野
8	2	ネブライザーによる 薬液吸入	1)ネブライザーの基礎知識 2)吸入の効果 3)ネブライザーの援助方法	演習	俣野
9	2	酸素吸入時の看護	1)酸素の性質 2)酸素吸入の目的 3)酸素吸入の適応・副作用 4)酸素吸入に使用する器具の特徴 5)酸素吸入時の観察・アセスメント	講義 VTR	俣野
10	2				俣野
11	2		6)酸素吸入の実際 (1)中央配管による吸入 (2)酸素ボンベによる方法	演習	俣野
12	2	吸引時の看護	1)吸引の意義 2)吸引の部位と身体への影響 3)吸引方法の選択 4)吸引の原理・吸引の適応 5)吸引の方法 6)吸引時の観察・アセスメント	講義	俣野
13	2				俣野
14	2		6)吸引の実際 (1)口腔、鼻腔からの一時吸引 (2)気管内の一時吸引(モデル使用)	演習	俣野
15	2	電法のための看護	1)電法の目的 2)局所への温熱刺激による生体への影響 3)電法の効果と種類 4)電法に関するアセスメント 5)電法の援助方法 6)電法の援助方法の実際 (1)氷枕による冷電法 (2)湯たんぽによる温電法	講義 演習	神林
16	2	創傷保護のための 看護	1)創傷の基礎知識 2)包帯法の意義・目的・種類・アセスメント 3)包帯法の援助方法 (1)巻軸帯による包帯法 (2)三角巾による包帯法 (3)止血法	講義	神林
17	2		4) 包帯法の援助方法の実際 (1)巻軸帯による包帯法 (2)三角巾による包帯法	演習	神林
18	2	救命救急処置の看護	1)救急看護の考え方 2)救急看護を受ける患者の特徴(ショック、熱傷を含む) 3)救急看護を受ける患者への看護 (1)心肺蘇生法(心臓マッサージ、気道確保、AED、除細動) (2)気道異物の除去	講義	岡村
19	2			講義	岡村
20	2			講義	岡村
21	2	救命救急処置の看護	4)基本的な治療・処置時の演習 (1)心肺蘇生法(心臓マッサージ、気道確保、AED、除細動)	演習	木村
22	2			演習	
23	1	科目試験		試験	
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 参考資料: 系統看護学講座 別巻 救命看護学 医学書院、系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院 参考文献: 看護がみえる①、② メディックメディア					
評価方法 : 筆記試験・レポート					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	
科 目 名					担 当 者		
42.基礎看護学実習Ⅰ					岡村ひろみ「看護師実務経験33年」 小山詩織「看護師実務経験6年」		
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態		
1	前期	45	1		実習		
目的：1. 看護の対象者とその生活の場を知り、看護師の活動の場と役割について理解する 2. 看護実践の見学・介助を通して患者への接し方を学び、日常生活援助の必要性を理解する							
一般目標：1. 病院の組織において看護師及び他職種の機能を理解する。 2. 病院における患者の生活環境とその環境を整備・調整する方法を理解する 3. 看護師の役割と日常生活援助の必要性を理解できる 4. 入院患者とのコミュニケーションが図れる 5. 主体的に学習し、実習目標達成のために行動がとれる 6. 礼節をわきまえた行動がとれる 7. 看護学生として責任ある行動がとれる							
項 目		内 容				備考	
実習時間		8:30～14:30 8:30～12:30 8:30～16:30 8:30～17:00					
実習構成		臨地実習					
実習施設		新潟県立柿崎病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 医療法人知命堂病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院 独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院 新潟県立中央病院 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 県立松代病院					
使用テキスト・参考資料・資料 講義で使用したテキストを参考にする 詳細は実習要項を参照する							
評価方法 実習評価表に基づいて行う							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野
科 目 名				担 当 者
43.基礎看護学実習Ⅱ				岡村ひろみ 看護師33年 渡部恵利香 看護師8年
年次	時期	時間数	単位	講義回数
2	前期	90	2	授業形態 実習
目的: Ⅴ. ヘンダーソンの看護理論を用いて対象者を理解し、看護過程が展開できる。 - 看護者として責任のある行動をとることができる				
一般目標: - コミュニケーションを通して、対象の気持ちを尊重する - 受け持ち対象者を生活行動の視点から身体・精神・社会的側面・発達段階を踏まえて理解する - 受け持ち対象者の生活行動における健康問題を分析・解釈する - 受け持ち対象者の健康問題の解決に向けた個別的な看護計画を2つ立案する - 受け持ち対象者の健康問題の解決に向けた個別的な看護計画を実施・評価する - 主体的に学習し、実習目標達成のための行動がとれる - 礼節をわきまえた行動がとれる - 看護学生として責任のある行動がとれる				
項 目	内 容			備考
実習時間	8:30～16:30			
実習構成	臨地実習			
実習施設	新潟県立柿崎病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院 医療法人知命堂病院 独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院 新潟県立中央病院 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター			
使用テキスト・参考資料・資料 講義で使用したテキストを参考にする 詳細は実習要項を参照する				
評価方法 実習評価表に基づいて行う				